

字幕付きプラネタリウムの投影

大草 秀美*・細田 須美子*・小田 佐由香*・太田 哲朗*

Production of the Planetarium program with subtitles

Hidemi Ohkusa, Sumiko Hosoda, Yuka Odasa and Tetsuaki Ohta

キーワード：プラネタリウム，字幕，バリアフリー

1. はじめに

三瓶自然館のビジュアルドームでは、プラネタリウムや大型ドーム映像など様々なコンテンツを投影、上映している。こうしたなかで、主に音声聞き取りづらい観覧者に向け、文字で情報を伝えることを目的とした字幕付きプラネタリウム番組の制作と投影を行ったので、ここに報告する。

2. 月をテーマとした字幕付きプラネタリウム

三瓶自然館では、聴覚に障がいがある、また音声が聞き取りづらいというニーズに対応するため、平成27年度に冬の星空を案内する字幕付きプラネタリウムの投影を行った(平成27年12月5,6日)。

投影後、アンケートなどから字幕(文字情報)は健常者にとっても、内容をより深く理解するために有効であることが判明したため、より広い観覧者層を想定した一般番組として、通年で投影が可能な字幕付きプラネタリウムの制作を計画した。

テーマは季節を問わず、また誰にとっても馴染みが深いという理由から、月を選択した。月にまつわる物語から現代の月探査の話題まで、広く親しみやすい番組となるよう考慮した。

3. 字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」の制作

本番組の制作に当たっては、当初字幕に意識したため書き言葉でのシナリオ制作をおこなった。結果として、館内職員向けに行った試写において、ナレーションと字幕のバランスなど、全体の不統一感を指摘する声が多数上がったため、以下のポイントを重視し再構成した。

- ・ナレーションが主体の通常投影と同じ、話し言葉のシナリオを作成すること
- ・ナレーションにそった字幕を表示し、目で追えるゆったりしたスピードを保つこと
- ・BGMについても同様に、ゆったりした選曲をもとに統一感を出すこと

こうして、ナレーションと字幕に一体感を持たせ、耳で聞くにも目で字を追うにも負担がない番組制作を進めた。

4. 字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」の投影

制作した番組は、老人の日・老人週間である平成28年9月15日～21日の期間、および障害者週間である12月3,4日の計8回投影した。投影に際しては、県内の聴覚障がい者情報センターや、ろう学校など各方面に広報を行った。結果、実際に聞こえに不安を持つ高齢者など、のべ238人の観覧があった。

この投影の観覧者に対しアンケートを行ったとこ

* 島根県立三瓶自然館，〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

ろ、下記のような意見が集まった。

- ・良い試みであり、目と耳で情報が得られるのでわかりやすかった。(企画の評価)
- ・月のことがよくわかり、眺めてみたくなった。(テーマの評価)
- ・字幕が少し大きかった。子供には漢字が難しかった。(字幕への意見)
- ・普段見られない内容で楽しかった。これからも続けてほしい。(今後への期待)

観覧者の多くが本番組をある程度評価し、次回への期待を持っていることが分かった。これは聴覚に障がいがあるなしに関わらず、誰もが楽しめる番組を制作するという当初のコンセプトに合致するものであり、字幕付きプラネタリウムという試みにおいて一定の成果を挙げられたと考えられる。

このため字幕の付け方、内容についての意見をフィードバックした上で当番組をプログラム化し、要望に応じ常時投影ができる体制をとることとした。

5. おわりに

字幕は聴覚に障がいがある人や音声聞き取りづらい人だけでなく、子供や一般の人にとっても番組を楽しむための一つのツールであるという観点は、実践によりそれが確かであることが示された。これは例えば、過去のプラネタリウム制作番組にも新たに字幕を付けることで新しい見方を発見できたり、プラネタリウムだけでなく大型ドーム映像へも応用が期待できるなどの可能性を示唆するものである。今後、より違和感がなく、聴覚に障がいがある、またない人双方にとって理解しやすい字幕の内容や表示方法について検討を重ねたい。また、発展して多言語対応も期待できるため、多方面への展開を計画する予定である。